

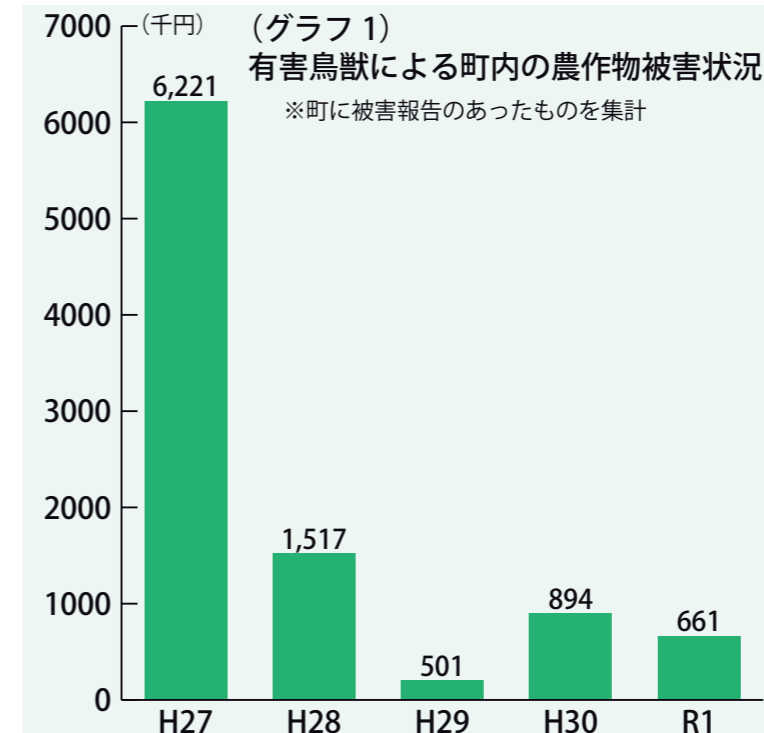
町の現状

被害状況や相手を知る

近年、全国的に中山間地域を中心として野生動物による被害が増加しています。集落と森林が隣接している国見町も決して例外ではありません。町の現状はどうなっているのでしょうか？

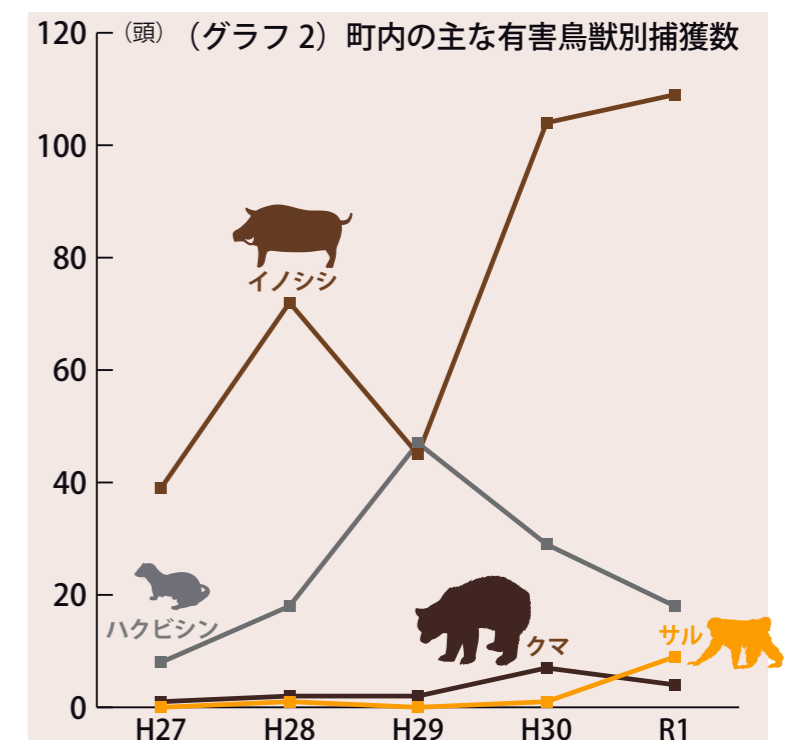
町鳥獣被害防止計画の 対象鳥獣(7種類)

- ・ニホンザル
- ・スズメ
- ・ツキノワグマ
- ・ムクドリ
- ・イノシシ
- ・ハクビシン
- ・カラス



国 見町は総面積37・95km²のうち37%の14km²が山林で豊かな自然に囲まれています。昔は自然と共生する中で、人と野生動物は適切なバランスを保ってきました。有害鳥獣と呼ばれる動物に正確な定義はありませんが、野生動物が農作物などに被害をもたらした場合、それらは有害鳥獣となります。町内では、イノシシ、ニホンザル、ツキノワグマ、ハクビシン、カラスなどの有害鳥獣による農作物の被害が報告されています。

有害鳥獣による町内の農作物被害状況(グラフ1)は、平成27年度から28年度にかけて大幅に減少していますが、これは侵入防止柵の設置やカラスの一斉追い払い、電気柵設置補助金の支給などの被害防止策の効果が一程度あつたものと考えられます。しかしながら、農作物被害により営農意欲が低下し、耕作放棄や離農が増え、さらなる鳥獣被害を招くという悪循環が



生じており、被害額の数字に表れる以上に地域に悪影響を及ぼし、深刻な状況となっています。

また、町内の主な有害鳥獣別捕獲数(グラフ2)を見てみると、特にイノシシが平成29年度を除き右肩上がりに急増しています。令和元年度のイノシシの捕獲数は109頭でしたが、令和2年度は1月末時点で、

134頭が捕獲されています。比較すると2か月少ないにも関わらず、すでに1・2倍以上に増えています。これは個体数の増加もありますが、イノシシが年々人里に降りてきていることも考えられます。

このように徐々に人と野生動物の住む場所の境がなくなり、今後さらなる被害の拡大が懸念されます。

町内で捕獲される主な有害鳥獣(すべて今年度町内で撮影)

イノシシの特徴



体長/約1.0m～1.7m
食性/雑食性で人間が食べるようなものはすべて食べる。
身体能力/20cmの隙間をくぐり抜けることができ、70kgの石を鼻で動かす。記憶力がよく、侵入に成功した仲間の真似をする。
繁殖力/年平均4～5頭

ニホンザルの特徴



体長/約50cm～60cm
食性/雑食性だが、肉や魚は食べない
身体能力/視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚は人間とほぼ同じ。木登りとジャンプが得意。また、高い学習能力を持つ。
繁殖力/2～3年に平均1頭※エサが豊富にあると毎年出産する。

ハクビシンの特徴



体長/約0.9m～1.1m
食性/果実食中心の雑食性
身体能力/樹木や柱に登る能力に優れていて爪がかからないものでも登ることができる。成獣でも8cmの正方形の穴をくぐり抜けることができる。
繁殖力/年平均2～3頭

ツキノワグマの特徴



体長/約1.2m～1.5m
食性/植物が中心の雑食性
身体能力/爪が発達していて木登り・穴掘り・泳ぎが得意。足が速く短時間なら時速40km程度で走ることができる。柔軟性があり狭いところも潜り抜けることができる。
繁殖力/年平均1～2頭

地域全体で対策に 取り組みましょう



町地域農業再生協議会
鳥獣被害対策員
渡邊 満男

鳥 獣被害対策は出沒する有害鳥獣を捕まえる「捕獲」、電気柵や花火などで追い払う「防護」、餌場や隠れ家の除去などで近づくにくい環境を作る「環境整備」があります。地域全体でこの3つを総合的に取り組むことが大切です。

町の鳥獣被害対策の中心は鳥獣被害対策実施隊です。町で捕獲されるほとんどの有害鳥獣には天敵がいまません。捕獲・駆除などで恐怖心を与え、山へ戻して野生動物と人の境界線をはっきりさせて、互いの住む場所を分けることが理想です。

そのためにも実施隊による捕獲と駆除で頭数を減らすことや捕獲圧をかけることが重要です。実施隊員

のみなさんは、活動とは別に自分の仕事を持っている中、忙しい時もわなの巡回や維持管理、捕獲した場合の駆除などを行っています。しかし、隊員の高齢化が進んでいる中で、捕獲数は増加傾向で一人ひとりの負担が大きくなっているため、実施隊の担い手確保が急務となっています。また、地域が一体となって鳥獣被害対策に取り組んでいかなければ今以上に事態が深刻化して、誰もが被害に遭うようになってしまうかもしれません。

最後にみなさんにお願いたわなや檻には絶対に近づかないでください。興味本位に近づくと、重大な事故につながる場合があります。